北関東支店をリニューアル

展示・デモスペース　情報発信に力

落合

落合（東京都台東区、03・3843・7251）は9月21日、北関東支店（群馬県太田市）をリニューアルオープンする（写真）。建物の老朽化や手狭になったことにより、土地と建物を取得し、建て替えた。投資額は非公開。働きやすいオフィスを目指した他、商品の展示やデモができるスペースを設け、情報発信にも力を入れていく。

北関東支店は2002年に太田営業所として開設し、07年に改称した。群馬県を中心に、埼玉県北部や栃木県足利市、新潟県などを営業エリアとしている。

昨年9月から建て替え工事に入っていた。敷地面積は296・98㎡、延べ床面積は673・49㎡。4階建て構造で、1階が駐車場、2階が事務所、3階が食堂や会議室、4階が屋上などとなる。14人体制でスタートする。

メーカーと販売店をつなぐ場所に

オフィスは全体的にゆとりのある作りにし、フリーアドレスなど状況に応じて柔軟に対応できる働きやすい空間を目指した。また、商品の展示やデモ、セミナーなどが行えるスペースを設けた。

橋本健二郎支店長は、「情報を集積し、メーカーと販売店をつなぐ場所にしていきたい」とする。

群馬県は創業者である落合次郎氏の出身地（群馬県桐生市出身）。橋本支店長は「当社にとって群馬は特別な土地。その地で、より良いサービスや情報を提供し、今後も必要とされる存在であり続けたい」と意気込む。

研削焼けの見える化

砥粒加工学会が研究会

砥粒加工学会は10月22日、オンラインで「研削焼けの見える化～インプロセス及び非破壊検査による研削焼けの検出～」と題した研究会を開く。

滋賀県立大学の中川平三郎名誉教授が「研削焼けの原因と対策について」をテーマに講演するほか、研削焼けに関する様々な技術を紹介する。

会員外からの参加も可能。申し込みなど詳細は、砥粒加工学会次世代固定砥粒加工プロセス専門委員会事務局048・829・7049。

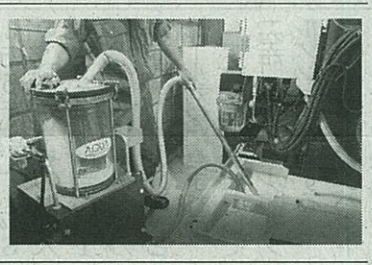
もうクサイなんて言わせない

金属加工油のトータル提案

ブラザー・スイスループ・ジャパン
アクアシステム

ブラザー・スイスループ・ジャパン（名古屋市中区、052・750・7560）とアクアシステム（滋賀県彦根市、0749・47・5215）はタナカ善（京都市伏見区、075・612・6900）の京滋マシン&ソリューションフェアーのセミナーで「もうクサイなんて言わせない『切削液をきれいに使ってコストダウン』切削液の管理と環境機器の提案」をテーマに、コラボセミナーを実施。切削液が腐敗するメカニズムから適切な管理・メンテナンス方法までトータル提案し、ユーザーの現場環境改善や課題解決を提案した。

「切削液への汚染は普通に起こりえること」と登壇したブラザー・スイスループ・ジャパンの安達潤氏はこう解説する。切削液には金属加工時の潤滑作用や冷却作用、錆止めなど様々な効果が期待できるが、一方で、腐敗し悪臭が出るなど工場環境を悪化させる要因の1つになるため、適切な切削液の選択から管理が求められる。ブラザー・スイスループの販売するブラシカットやバズコシリーズ、シナジーシリーズなどの切削・研削液は防腐剤や殺菌剤などを含まず、優れた切削性能と



人体や環境への負荷が少ない製品となっているが、腐敗しにくくするには濃度管理や浮上油の除去、切粉の除去といった清掃など「適切な管理・メンテナンスが必要」と説く。

そこでポンプメーカーであるアクアシステムはエア技術を駆使したエア式循環タンク清掃ろ過クリーナーを紹介。手作業では長時間かつ重労働になるタンク清掃を200ℓタンクで最短5分の作業を可能にし、作業の時間短縮や工数削減を提案。切粉のろ過や切削液の再利用も実現する。同社営業部の増田明氏は「清掃にかかる時間やコストに悩むユーザーは多い。清掃時間を短縮することで、他の作業に時間をあてることが可能」と話す。

昨今は人手不足やSDGsなどで工場環境の改善に乗り出すユーザーは多いが、悩みの種なのが切削油における悪臭やヘドロ状の沈殿物だ。切削液の選定から適切な管理までトータルで考えることで、工場環境は大きく改善する可能性がある。

水素フリーDLC

大型金型のコーティング加工に力

500×500㎜、100kgに対応

前橋工場

日本アイ・ティ・エフ

DLCなどのコーティングを手掛ける日本アイ・ティ・エフ（京都市南区、075・931・6282）が、大型金型のDLCコーティング加工に力を入れている。自動車のマルチマテリアル化などを背景に金型へのコーティングの需要が増えており、その市場の動きに応える。

大型金型への受託コーティング加工は今年4月、前橋工場（群馬県前橋市）で開始した。自動車部品のコーティング加工をしてきたコーティング設備（十数機）に加え、大型の半自動1槽式洗浄乾燥機を新たに導入。500×500㎜、100kgの金型に水素フリーDLC「HA-DLC」をコーティング加工できるようにした。

自動車は、複数の素材を組み合わせて最適化するマルチマテリアルが進む。その一つとしてボディや骨格に鉄より軽いアルミの採用が広がる。しかしアルミは軟質金属で融点が低いため、プレス加工を繰り返すと摩擦による熱で凝着する。

「HA-DLC」はHv3000以上の高硬度で、密着性に優れ、摩擦抵抗減少に効果がある。金型にコーティング加工することで表面の形状を維持し、摩擦による熱を抑制。塑性加工時のアルミの凝着を抑え、生産性を高めることができる。前橋工場（2005年開設）はこれまで、自動車部品のコーティング加工を手掛けており、その技術やノウハウを生かし金型に展開する。

浅儀典生営業部長は「得意分野や強みを生かし金型のニーズに応えていきたい。コーティング加工の品質に加え、大型金型は重量があり、取り扱いが難しいのでデリバリーや安全面などに取り組んでいかなければならない」。

海を渡ったうさぎ

今泉　英明氏著

広島県竹原市にある「うさぎ島」にあった毒ガス工場をテーマにした小説。うさぎ島の正式名は大久野島で、瀬戸内海に浮かぶ周囲約4㎞の小島。現在は国立公園に指定され、500羽を超えるうさぎが生息し多くの観光客が訪れるが、太平洋戦争時は、毒ガス工場があり、秘密保持のため地図から消された島と呼ばれた。

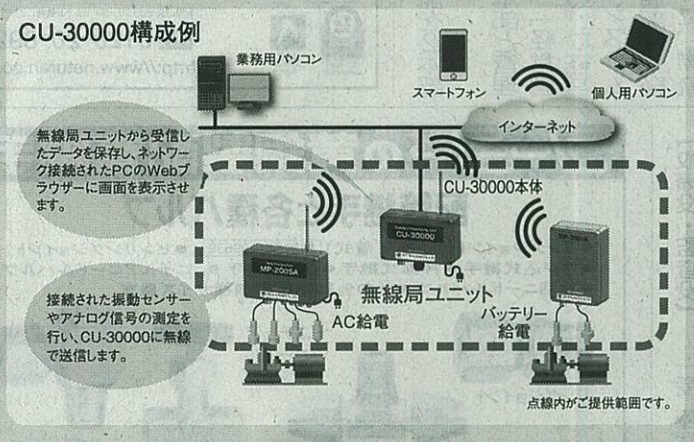
物語は、主人公の学生が旅行で訪れ、ある女性と出会う。二人の話のやりとりから、戦時の毒ガス工場での厳しい労働環境や若者への洗脳などをイメージでき、改めて戦争を考えさせられる。

オーエスジーの設計技術者である今泉英明氏（63歳）が、学生時代の記憶などを基に自身初の小説を発刊した。「広島には原爆被害の一方、毒ガスによる加害の歴史もある」として、新聞記事やドキュメンタリー番組などを手掛かりに、仕事の合間を縫って書き進めた。旧海軍軍人として広島・呉で終戦を迎え、5年前に他界した父の影響もあった。今泉氏は「若い人たちが戦争や平和について考えるきっかけになれば」としている。

無線式コンパクトモニタリングユニット

CU-30000

IoTに最適! 簡単設置・低価格!
プラントデータの常時監視ツール



特長
◆ワイヤレスによる簡単設置
◆長距離通信が可能な無線ネットワーク
◆振動センサーと高性能な振動計測機能
◆振動や温度・圧力などのアナログ信号の監視が可能
◆無線局ユニットは2種類（AC/バッテリー）の給電方式から選択
◆ソフトのインストールが不要

※仕様は予告なく変更することがございます。

JFE アドバンテック 株式会社
本社・本社工場　〒663-8202 兵庫県西宮市高畑町3-48　TEL0798-66-1508 FAX0798-65-7025
（計測診断事業部 大阪営業部）
東北支店 TEL022-711-7535
名古屋支店 TEL052-565-0070
中国・四国支店 TEL086-440-1580
九州支店 TEL092-263-1671
東日本事業所 TEL043-262-4238
ISO9001